

松井和久がみるインドネシア：(4) コロナ対策と経済回復を目指す、カギはジャワ島経済

- 新型コロナウイルス感染は8月半ば時点でも収束する気配はなく、陽性率も12～13%と高いままである。
- 第2四半期の成長率はマイナス5.23%と悪化、しかし周辺他国ほどは落ち込まず、むしろ健闘している。
- 来年度予算はコロナ対策と経済回復の両立を目指す、貧困人口増加のジャワ島の経済回復がカギを握る。

◆引き続き感染者数増加、重症化リスク低下でも陽性率は漸増

8月24日時点での中央政府発表の感染者数は累計で15万5,412人、死亡者は同6,759人、回復者は同11万1,060人でした。累計感染者数は世界第23位で、東南アジアではフィリピンに次ぐ数となっています。

回復者率(累計回復者数/累計感染者数)の上昇と死亡者率(累計死亡者数/累計感染者数)の低下は一貫して続き、重症化の危険は低下傾向ですが、感染者数の増加スピードは落ちておらず、陽性率は12～13%へ高いままとなっています。

◆第2四半期の成長率はマイナス5.32%、他国ほど落ち込まず

中央統計庁の発表によると、2020年第2四半期のGDP成長率は-5.32%でした。とくに、大規模社会的制限(PSBB)の影響をもろに受けた運輸・倉庫業が-30.84%、ホテル・レストラン業が-22.02%、商業が-7.57%、製造業が-6.19%でした。他方、情報通信業は10.88%と高成長を継続、農林水産業も例年並みの2.19%で、農業生産は堅調のようです。成長を支える民間消費が-5.51%、投資(総固定資本形成)も-8.61%とふるいませんでした。

今回の-5.32%という数字は1998年の通貨危機以来の数字ですが、周辺他国と比べると健闘しているといえます。東南アジア諸国の2020年第2四半期GDP成長率は、ベトナムのみがプラス成長(0.36%)だったのを除くと、マレーシアが-17.1%、フィリピンが-16.5%、シンガポールが-12.6%、タイが-12.2%と大きく落ち込みました。

◆2021年度予算案は経済回復加速化と改革強化を目指す

8月14日、ジョコ・ウィドド大統領は国会で、独立記念日演説とともに2021年度予算案を発表しました。予算案はコロナ禍からの経済回復、競争力強化のための構造改革、デジタル化の加速、人口ボーナス活用の4つを目標を掲げました。対GDP比5.5%へ財政赤字幅を広げ、歳入総額1,776.4兆ルピア、歳出総額2,747.5兆ルピアの財政出動型予算案としました。2021年予算案でのマクロ指標は、GDP成長率4.5～5.5%、インフレ率3%、対米ドルレート14,600ルピアと想定しています。

◆カギを握るのはジャワ島の経済回復

2020年第2四半期のGDPを地域別にみると、最も落ち込みの大きかったのはジャワ島の-6.69%で、バリ・ヌサトゥンガラが-6.29%で続きました。連日の新規感染者の5～6割を占めるジャワ島では、とくに都市部での貧困人口の増加が顕著になっており、さらなる悪化も懸念されます。インドネシア経済が回復へ向かうかどうかは、ジャワ島の経済回復がカギを握るといえそうです。

執筆者紹介：松井和久(松井グローバル合同会社代表)
／インドネシアと日本を結ぶコンサルタント。

ジェトロ・アジア経済研究所(1985～2008)、JICA専門家、JETRO専門家などインドネシアに関する調査研究・コンサルティング経験は35年以上。ジャカルタ、マカッサル、スラバヤにのべ15年以上長期滞在。

